

第 29 回防災文化講演会「大震災の教訓に基づいた個人・コミュニティ防災： 取り組まれている事例紹介」を開催しました(2019/06/08)

テーマ：自主防災，津波災害

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesenuma/kouenkai.html>

6月8日（土）に，気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館研修室 A・B にて，第 29 回防災文化講演会（主催：東北大学災害科学国際研究所，共催：気仙沼市）を開催しました。当研究所は平成 25 年 7 月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに，気仙沼分室を気仙沼市内に設置して，防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。その活動の一環として，防災に関する講演会を年に数回開催しています。

第 29 回を迎えた今回は，「大震災の教訓に基づいた個人・コミュニティ防災」をテーマに 2 つの講演と，2018 年にインドネシアで発生した津波についての話題提供を行いました。講演では，ゲストとして，東北大学大学院工学研究科・博士後期課程・北村美和子氏から①「よりそって考えるコミュニティ主体で行う持続可能な防災への備え」，当研究所の門廻充侍助教（災害リスク研究部門・津波工学研究分野）から②「フロートパックを用いたアプローチ・津波から生き残るために」と題して講演を行いました。また，サッパシー・アナワット准教授（災害リスク研究部門）からは「2018 年にインドネシアで発生した複雑な津波について」の話題提供がありました。全体進行は，佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）がとめました。気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を会場としての初の開催にも関わらず，座席数を上回る 45 名もの方にご参加いただきました，市民のみなさんから多くのご質問をいただき，盛会のうちに終わりました。



講演①：東北大学大学院 北村美和子氏



講演②：門廻充侍助教



話題提供：サッパシー・アナワット准教授



会場の様子

文責：サッパシー・アナワット（災害リスク研究部門）
佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）